

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している。	60.3%
1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している。	54.8%
示された式の数値の意味を解釈し、それを記述できる。	28.8%
示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる。	12.3%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
伴って変わる2量の関係について読み取ったことを基に、問題を解決できる。	20.3%
2量を関連付けながら表にまとめ、それらの関係を読み取ることができる。	35.6%
対角線の特徴から四角形を弁別できる。	47.5%
直方体の切る辺と切り開いた後にできる展開図とを関連付けられる。	54.2%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
○計算技能は身に付いている。 ○適切な資料を選んだり、資料から正しい情報を読み取ったりする力は概ね身に付いている。	○伴って変わる数量の関係に着目し、順序よく整理して規則性を見だし、問題を解決すること。 ○式や数値の意味を正しく解釈すること。 ○考えを自分の言葉で記述、説明すること。

- 問題場面を図、表等に整理し、数量の関係を捉えられるようにする。
 ○立式の根拠や演算の意味、求めた数値の意味を問い、自分の言葉で説明させる。
 ○自分の考えを、相手に伝わるよう表現を工夫してノートに記述できるよう指導する。
 ○ペアやグループ等で話し合い、自分の考えを深めたり、友達の考えから学んだりできるようにする。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	○文章問題を解くときに式を書かなかったり、既習事項を忘れたりする。思考を言葉で表現することが苦手である。	○問題場面を絵や図に表し、根拠をもって立式できるようにする。 ○具体物や操作活動を意識して取り入れ、式に表すよさを実感させていく。
2年生	○計算の技能は身に付いているが、考え方を問う設問に対しては弱い。	○問題場面を絵や図に表し、根拠をもって立式できるようにする。 ○具体物や操作活動を意識して取り入れる。 ○考えを自分の言葉で説明する機会を多く設ける。
3年生	○二等辺三角形、正三角形の概念、角の概念、角の性質を理解させる必要がある。 ○文章題の題意を捉える力、量を示す複数の表現から、適切なものを選んで正しく立式する力を身に付けさせる必要がある。	○問題場面を図に表し、根拠をもって立式できるようにする。 ○ICTや具体物を活用し、角や図形の概念および性質を視覚的に捉えられるようにする。 ○考えを自分の言葉で説明する機会を多く設ける。
4年生	○計算の技能は身に付いているが、問題場面の意味を捉えて正しく立式することに課題がある。	○問題場面を図に表し、根拠をもって立式できるようにする。 ○自分の考えを絵や図、式、言葉等の表現を工夫してノートに書けるよう指導する。 ○隣同士やグループなどを設定し、自分の考えを深めたり友達の考えから学んだりできるようにする。
5年生	○計算の技能は身に付いているが、思考力を問う問題になると、既習事項を活用したり、適切な式に表したりすることが苦手な児童が多い。	○自分の考えを絵や図、式、言葉等の表現を工夫してノートに書けるよう指導する。 ○隣同士やグループなどを設定し、自分の考えを深めたり友達の考えから学んだりできるようにする。 ○立式の根拠や演算の意味、求めた数値の意味を問い、自分の言葉で説明させる。
6年生	○計算の技能は概ね身に付いているが、思考力を問う問題になると、既習事項を活用したり、適切な式に表したりすることが苦手な児童が多い。	○自分の考えを絵や図、式、言葉等の表現を工夫してノートに書けるよう指導する。 ○隣同士やグループなどを設定し、自分の考えを深めたり友達の考えから学んだりできるようにする。 ○立式の根拠や演算の意味、求めた数値の意味を問い、自分の言葉で説明させる。 ○一人の意見を全体で深めていけるような場面を意図的に設定する。

●前年度の取組及び本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
○計算の技能は、身に付いている児童が比較的多い。 ○学習意欲が高い。	○計算の意味理解や自分の考えを書くことに苦手意識をもっている児童が多い。 ○考え方を問う問題になると、自分の力で解こうとする意欲が低下する。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	○たし算、ひき算の基礎が身に付き、積極的に学習する児童が多い。家庭学習にも熱心に取り組む。 ○文章題を解くときに式を書かなかったり、既習事項を忘れたりする。思考を言葉で表現することが苦手である。 ○ブロックを正しく扱えない児童がいる。	○授業・家庭学習共に、十分な問題量を確保する。 ○簡単なことから発問し、意見を言いやすい雰囲気を作った上で、考えたことを表現する場を多くする。 ○ノートに日付け・ページ・授業のめあてなどを書かせる指導を行い、何に取り組んでいるか明確にする。 ○ブロックを使うときは、必要な数や操作の仕方について、具体的に指示をする。
2年生	○既習事項が身に付いていない児童が数名いる。 ○計算の技能は身に付いているが、考え方を問う設問に対しては弱い。	○ベーシックドリルを活用し、定期的に復習の時間を設定することで、既習事項を確実に身に付けさせる。 ○考え方を問う発問を増やし、児童に、問題解決の仕方を考える習慣を身に付けさせる。
3年生	○既習事項が身に付いていない児童が数名いる。 ○計算問題などは意欲的に取り組むが、思考力を問う問題になると戸惑う児童が多い。 ○計算の技能は比較的身に付いている。	○ベーシックドリルを活用し、定期的に復習の時間を設定することで、既習事項を確実に身に付けさせる。 ○自力解決の時間と、自分の考えを交流する活動を設定する。考えのまとめ方(図や文を使った整理の仕方)を示す。
4年生	○どの課題にもこつこつと努力して意欲的に学習する児童が多い。 ○既習事項が身に付いていない児童の割合が、比較的多い。 ○計算技能は比較的身に付いているが、思考力を問う問題になると戸惑う児童が多い。	○ベーシックドリルを活用し、定期的に復習の時間を設定することで、既習事項を確実に身に付けさせる。 ○自力解決の時間と、考えたことを表現する時間を確保し、思考を広げていく。 ○ペア活動を入れて、考えを発表する時間を作る。
5年生	○既習事項が身に付いていない児童が数名いる。 ○計算技能は比較的身に付いているが、思考力を問う問題になると十分に説明し切れない児童が多い。	○ベーシックドリルを活用し、定期的に復習の時間を設定することで、既習事項を確実に身に付けさせる。 ○友達の考え方を説明するなど、友達の考えを理解し、自分の考えに活かす授業を取り入れる。
6年生	○既習事項が身に付いていない児童が数名いる。 ○計算技能は比較的身に付いているが、思考力を問う問題になると十分に説明し切れない児童が多い。	○ベーシックドリルを活用し、定期的に復習の時間を設定することで、既習事項を確実に身に付けさせる。 ○友達の考えを受けて、自分の考えを加除修正して、よりよい考えをもたせる。

●学校全体で取り組む内容

○基礎・基本の定着をはかるためにベーシックドリルを活用し、4～6年生は2学年下、3年生は1学年下の問題を確実に解くことができるようにする。 ○自分の考えを絵や図、式、言葉でノートに書く時間を確保すると共に、書き方を具体的に指導する。 ○考える力の育成をはかるために、自分の考えを伝え合う場(ペア、グループ、全体)の工夫をする。
